KAYABA RALLY TEAM

2026 ALL JAPAN RALLY CHAMPIONSHIP REPORT #9

Rd.9

2026/11/20～22　群馬県安中市

加勢裕二杯 MONTRE 2026

スペシャルステージ

SS数: 11
路面: ターマック

総走行距離: 379.21 km
SS距離: 65.92 km

LEG1A 11/20(金) 天候: 晴れ / 路面: ドライ

SSS1	Annaka Castle	0.54 km

LEG1B 11/21(土) 天候: 晴れ / 路面: ドライ

	SERVICE A (15 min)	
SS2	Morikuma 1	8.25 km
SS3	Old Usui Touge 1	9.10 km
	SERVICE B (45 min)	
SS4	Old Usui Touge 2	9.10 km
SS5	Morikuma 2	8.25 km
	SERVICE C (45 min)	

LEG2 11/22(日) 天候: 晴れ / 路面: ドライ

	SERVICE D (15 min)	
SS6	Harukura 1	8.56 km
SS7	Motomizawa 1	6.28 km
SS8	Matsuida Branch 1	0.50 km
	SERVICE E (45 min)	
SS9	Matsuida Branch 2	0.50 km
SS10	Motomizawa 2	6.28 km
SS11	Harukura 2	8.56 km

SSS1	NEW Annaka Castle	全日本ラリーでは珍しく金曜日の夜に競技が始まる。安中市文化センターへの進入路と駐車場を使用したギャラリーステージ。夜間走行に加え、タイヤウォーミングもないため、冷え切ったタイヤのグリップをいかに引き出すかが鍵となる。
SS2/5	NEW Morikuma	序盤はタイトコーナーが続く県道を駆け上がり、中盤は高速コーナーが続く狭い林道を通過。終盤は再び県道に合流し、急勾配を下る。林道区間は起伏が激しく、速度変化も大きいため、走行リズムを掴みづらいステージ。
SS3/4	Old Usui Touge	旧碓氷峠を駆け下る片側1車線のステージ。2024年に設定され、日本で初めて国道を使用したステージとして話題となった。11月開催となった今年は美しい紅葉が広がる一方で、路面に堆積した落ち葉が難易度を高める。
SS6/11	NEW Harukura	路面は比較的綺麗で走りやすいが、泥の堆積やアスファルト舗装からコンクリート舗装への切り替わりなど、路面特性が目まぐるしく変化する。複合コーナーも多く、走行リズムを掴むことが難しいステージ。
SS7/10	NEW Motomizawa	低速コーナーが多く、終盤は急な下り勾配となる。ステージ全体に落ち葉が多く、落ち葉に覆われたコーナーと落ち葉の少ないコーナーが混在するため、路面状況を的確に判断する力とペースノートの作成力が試される。
SS8/9	NEW Matsuida Branch	安中市役所松井田支所の敷地と隣接する駐車場を使用した、タイトコーナーが連続するテクニカルなパイロンステージ。広い範囲から観戦でき、ラリーカーの轟音が周辺の住宅街にまで響き渡る。町を挙げて作り上げられたステージである。

SS2/5



SS6/11



SS8/9



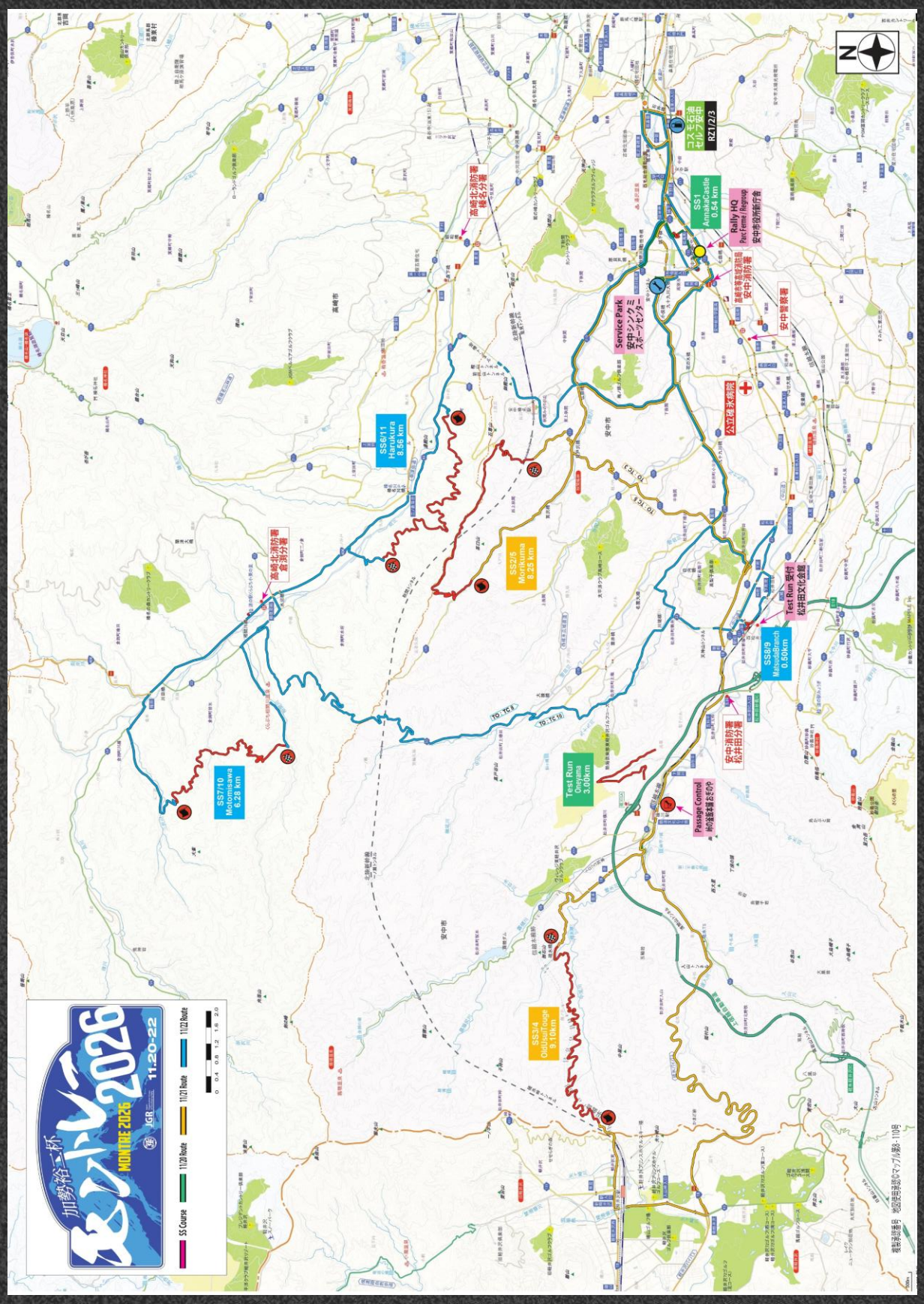
SS3/4



SS7/10



全体図



チーム体制



監督	：	桝本 一憲
リーダー	：	大西 一智　（第2期）
ドライバー	：	石黒 一暢　（第1期）
コ・ドライバー	：	穴井 謙志郎（第1期）
メカニック	：	増谷 大志　（第1期）
		北原 由享　（第2期）
		湯浅 慎一郎（第2期）
		井戸 貴之　（第2期）
エンジニア	：	古川 優太　（第2期）
マネージャー	：	池戸 敬也　（第2期）
チームアドバイザー	：	奴田原 文雄（NUTAHARA Rally Team）
メカニックアドバイザー	：	山田 淳一（RUTS RACING）



リザルト

クラス8位 / 総合15位（JN-1クラス11台 / 総合78台 参加）

クラス	No.	Dr.	Co-Dr.	参加車両名	車両型式	車両区分	LEG1A	LEG1B						LEG2								総合計	ｸﾗｽ順位	総合順位
							SS1	SS2	SS3	SS4	SS5	Penalty	合計	SS6	SS7	SS8	SS9	SS10	SS11	Penalty	合計			
JN-1	1	新井 大輝	立久井 大輝	R2R×YAHAGI GRヤリスラリー2	MXPA12	FIA	0:29.4	5:59.3	6:46.5	6:39.0	5:50.1		**25:44.3**	6:48.5	5:56.7	0:28.3	0:28.1	5:40.5	6:36.2		**25:58.3**	**0:51:42.6**	1	1
JN-1	2	鎌田 卓麻	松本 優一	Castrol TEIN DL ファビア	ABCUFX11	FIA	0:29.6	6:09.5	6:50.0	6:43.0	6:06.3		**26:18.4**	6:53.6	5:57.8	0:28.8	0:28.7	5:44.2	6:43.0		**26:16.1**	**0:52:34.5**	2	2
JN-1	3	勝田 範彦	保井 隆宏	ラックルーキーDLGRヤリスRally2	MXPA12	FIA	0:29.7	6:16.1	6:55.5	6:49.2	6:06.0		**26:36.5**	6:53.5	6:03.1	0:28.1	0:28.2	5:45.8	6:44.6		**26:23.3**	**0:52:59.8**	3	3
JN-1	4	奴田原 文雄	東 駿吾	ADVAN KTMS GRヤリスラリー2	MXPA12	FIA	0:34.2	6:14.0	6:57.2	6:49.6	6:08.7		**26:43.7**	6:59.0	6:06.9	0:29.2	0:28.3	5:45.1	6:44.7		**26:33.2**	**0:53:16.9**	4	4
JN-1	5	福永 修	齊田 美早子	スミロン焼肉ふじCTE555DLファビア	ABDKZX11	FIA	0:29.1	6:29.5	7:02.3	6:57.8	6:16.5		**27:15.2**	7:10.6	6:10.3	0:28.7	0:28.1	5:50.8	6:54.8		**27:03.3**	**0:54:18.5**	5	5
JN-3	12	山田 啓介	藤井 俊樹	FITEASYソミック石川DLGRヤリス	GXPA16	RJ	0:29.9	6:27.8	7:05.7	6:56.9	6:23.3		**27:23.6**	7:03.4	6:09.1	0:32.8	0:30.5	5:58.9	7:00.9		**27:15.6**	**0:54:39.2**	1	6
JN-3	16	小泉 敏志	加勢 直毅	MAYA DL CUSCO DDヤリス	GXPA16	RJ	0:30.6	6:30.2	7:10.7	7:05.8	6:23.8		**27:41.1**	7:17.6	6:15.0	0:29.8	0:29.0	5:59.1	7:04.4		**27:34.9**	**0:55:16.0**	2	7
JN-1	9	川名 賢	刀祢 佑大	SUBARU WRX S4	VBH	ASN	0:31.2	6:34.9	7:16.4	7:07.1	6:20.4		**27:50.0**	7:20.0	6:12.3	0:29.5	0:28.5	6:04.7	7:03.6		**27:38.6**	**0:55:28.6**	6	8
JN-3	15	貝原 聖也	西﨑 佳代子	ADVICS 多賀製作所 K1カヤバGRヤリスDL	GXPA16	RJ	0:31.2	6:36.0	7:05.3	7:05.0	6:37.2		**27:54.7**	7:15.2	6:15.2	0:30.6	0:30.5	5:58.7	7:04.8		**27:35.0**	**0:55:29.7**	3	9
JN-3	13	大倉 聡	豊田 耕司	AISIN GR Yaris DAT	GXPA16	RJ	0:33.6	6:43.0	7:08.8	7:07.9	6:28.0		**28:01.3**	7:12.9	6:15.6	0:32.5	0:31.6	6:01.0	7:00.1		**27:33.7**	**0:55:35.0**	4	10
JN-1	6	松岡 孝典	竹下 紀子	MATEX-AQTEC DL GRヤリス	GXPA16	RJ	0:31.0	6:36.8	7:04.8	7:00.8	6:31.2		**27:44.6**	7:19.0	6:35.3	0:31.2	0:30.9	6:04.8	7:07.1		**28:08.3**	**0:55:52.9**	7	11
JN-3	17	内藤 学武	大高 徹也	YH TEIN Motys GRヤリス	GXPA16	RJ	0:32.8	6:37.0	7:14.7	7:09.5	6:27.9		**28:01.9**	7:24.6	6:17.1	0:30.7	0:30.1	6:04.2	7:09.3		**27:56.0**	**0:55:57.9**	5	12
JN-3（MCC）	20	米林 慶晃	菅野 総一郎	KTMS NRS GRヤリス	GXPA16	RJ	0:33.1	6:37.9	7:06.5	7:06.2	6:39.1		**28:02.8**	7:16.8	6:26.4	0:30.9	0:30.7	6:04.8	7:14.2		**28:03.8**	**0:56:06.6**	6	13
JN-3	35	田口 勝彦	北川 紗衣	HKS GR YARIS	GXPA16	RJ	0:31.7	6:47.8	7:13.7	7:04.8	6:24.1		**28:02.1**	7:16.3	6:14.0	0:31.8	0:30.6	5:59.1	7:33.4		**28:05.2**	**0:56:07.3**	7	14
JN-1	8	石黒 一暢	穴井 謙志郎	カヤバ YH GRヤリス	GXPA16	ASN	0:32.6	6:48.1	7:16.6	7:12.4	6:37.9		**28:27.6**	7:15.0	6:20.3	0:30.2	0:29.9	6:04.0	7:02.2		**27:41.6**	**0:56:09.2**	8	15
JN-3（MCC）	28	岩堀 巧	相原 貴浩	一六RACING GRヤリス	GXPA16	RJ	0:31.9	6:43.5	7:15.4	7:11.9	6:35.5		**28:18.2**	7:24.3	6:17.0	0:31.2	0:30.8	6:07.2	7:08.5		**27:59.0**	**0:56:17.2**	8	16
JN-3	14	徳尾 慶太郎	石田 一輝	DUNLOPクスコitzzフォルテックGRヤリス	GXPA16	RJ	0:29.1	6:56.0	7:13.7	7:06.3	6:30.9		**28:16.0**	7:19.9	6:24.8	0:32.5	0:30.8	6:07.5	7:09.6		**28:05.1**	**0:56:21.1**	9	17
JN-3（MCC）	23	三枝 聖弥	木村 裕介	IMSF DL GRヤリス 初号機	GXPA16	RJ	0:31.7	6:39.0	7:17.1	7:19.1	6:41.2		**28:28.1**	7:15.3	6:23.1	0:31.5	0:30.6	6:09.9	7:09.9		**28:00.3**	**0:56:28.4**	10	18
JN-3（MCC）	22	奥井 優介	藤田 めぐみ	CUSCO GRG水戸けやき台DLWMヤリス	GXPA16	RJ	0:30.7	6:42.9	7:16.4	7:11.4	6:33.0		**28:14.4**	7:26.6	6:29.9	0:29.6	0:28.9	6:05.5	7:15.7		**28:16.2**	**0:56:30.6**	11	19
JN-3	19	吉原 將大	村山 朋香	UPGARAGE CUSCO WM DL ヤリス	GXPA16	RJ	0:32.4	6:44.5	7:13.5	7:13.4	6:45.8		**28:29.6**	7:25.2	6:24.6	0:31.2	0:30.3	6:14.4	7:13.3		**28:19.0**	**0:56:48.6**	12	20

LEG1A

SSS1 Annaka Castle 0.54km

走行タイム 0:32.6　ステージ順位：クラス 7位 / 総合 17位　合計タイム順位：クラス 7位 / 総合 17位

観戦に特化したスーパーSS（SSS）として設定され、日没後の走行となった。前方をより明るく照らすライトポッドと、車両斜め前方を照らすコーナーライトを装着。いずれも信頼のPIAA製である。スタート直前には電気系トラブルが発生し、ヒヤッとする場面もあったが、走行に支障はなく、スムーズにコーナーを繋いだ。スライド量が多くタイムは伸びなかったものの、多くの観客を沸かせる走りとなった。













LEG1B

SERVICE A (15min)

SS2 Morikuma 1 8.25km

走行タイム 6:48.1　ステージ順位：クラス 9位 / 総合 21位　合計タイム順位：クラス 9位 / 総合 21位

夜が明け、林道ステージとなるSS2から競技が再開された。低速コーナーと高速コーナーが入り混じり、路面特性も変化するため、走行リズムを掴むことが難しい。事前テストと本番の路面特性の違いにセッティングを合わせきれず、全体的にアンダーステア（車両が曲がりにくい挙動）に苦しむ展開となった。車両に不具合やダメージはなく、無事に走り切ったものの、思うようにペースを上げられず、タイムは伸びなかった。



SS3 Old Usui Touge 1 9.10km

走行タイム 7:16.6　ステージ順位：クラス 9位 / 総合 22位　合計タイム順位：クラス 9位 / 総合 21位

モントレーの目玉となる旧碓氷峠の下りステージ。競技進行の遅れにより、タイヤウォーミングを終えた後にスタートを待つことに。十分に温めたタイヤも冷えてしまい、グリップが低下した状態でスタートすることとなった。直後の1コーナーでハーフスピンを喫し、出鼻をくじかれる展開に。気を取り直して走行を続けたものの、ハーフスピンによるタイムロスが響き、総合22位のタイムに留まった。



SERVICE B (45min)

SS4 Old Usui Touge 2 9.10km

走行タイム 7:12.4　ステージ順位：クラス 9位 / 総合 23位　合計タイム順位：クラス 9位 / 総合 22位

サービスBにてリアの減衰力を変更し、フロントには新品タイヤを投入。2024年のモントレーでは、熊ノ平駐車場に集まった観客の前でドリフト走行を披露した。第1期最後となる今年もその再現を狙ったが、路面の落ち葉を警戒して慎重な進入となり、残念ながら不発に終わった。SS3から4.2秒のタイムアップを果たしたものの、他車はそれ以上にタイムを縮め、ステージ総合順位を落とした。



SS5 Morikuma 2 8.25km

走行タイム 6:37.9　ステージ順位：クラス 9位 / 総合 18位　合計タイム順位：クラス 9位 / 総合 19位

SS4終了後にアイドリング回転数が上昇するトラブルが発生。応急処置を施したものの、SS5スタート直前に症状が再発した。ブレーキング時にも駆動力が残るため、通常よりも長い減速距離を確保せざるを得ない状況に。特に後半の急勾配を下るセクションでは車両のコントロールが難しかったが、何とか走り切った。1日を通してタイムは振るわなかったものの、車両には一切傷を付けることなくLEG1を終えた。



SERVICE C (45min)





















LEG2

SERVICE D (15min)

SS6 Harukura 1 8.56km

走行タイム 7:15.0　ステージ順位：クラス 7位 / 総合 9位　合計タイム順位：クラス 9位 / 総合 19位



LEG2では落ち葉や泥など、滑りやすい路面が増えるため、サービスCにてサスペンションのセッティングを雨天用に近づけた。この変更がコース特性に見事にマッチし、LEG1とは打って変わって車両の挙動が安定。ドライバーも自信を持って攻めることができ、ハイペースでステージを駆け抜け、総合9位の好タイムを記録した。車両トラブルも発生せず、幸先の良いLEG2のスタートとなった。

SS7 Motomizawa 1 6.28km

走行タイム 6:20.3　ステージ順位：クラス 8位 / 総合 15位　合計タイム順位：クラス 9位 / 総合 18位



落ち葉が多く堆積した非常に滑りやすいステージ。想定通り車両は頻繁にスライドしたが、落ち着いてコントロールしながら走行。ペースノートに滑りやすいという情報が無い箇所でも車両が滑るなど、気の抜けない状況だったが、路面状況を見極め、攻められるコーナーでは積極的にペースを上げた。これまで苦手としてきた滑りやすい路面ながらも、LEG1より自信を持ってハイペースで走行することができた。

SS8 Matsuida Branch 1 0.50km

走行タイム 0:30.2　ステージ順位：クラス 8位 / 総合 10位　合計タイム順位：クラス 9位 / 総合 17位



安中市役所松井田支所の敷地内にパイロンコースが設定され、タイトコーナーが連続する見応えのあるギャラリーステージには多くの観客が集まった。サイドブレーキを多用し、車両の向きを素早く変えながら、ロスの少ない走行を心掛けた。途中にはジャンプする箇所もあり、選手自身も楽しみながら走行することができた。大きなミスもなくスムーズにコーナーを繋ぎ、総合10位のタイムを記録した。

SERVICE E (45min)

SS9 Matsuida Branch 2 0.50km

走行タイム 0:29.9　ステージ順位：クラス 7位 / 総合 9位　合計タイム順位：クラス 9位 / 総合 17位



サスペンションのセッティングが良好であったため、サービスEではフロントに新品タイヤを投入するに留め、車両のメンテナンスを重点的に行った。SS9では気温もさらに上昇し、タイヤのグリップを引き出しやすいコンディションとなった。1回目の走行を振り返り、コーナーへの進入や車両の向きの変え方など、細かな部分をブラッシュアップしながら走行。0.3秒のタイムアップを果たした。

SS10 Motomizawa 2 6.28km

走行タイム 6:04.0　ステージ順位：クラス 6位 / 総合 11位　合計タイム順位：クラス 8位 / 総合 15位



SS7のリピートステージ。依然として落ち葉が堆積し、滑りやすい箇所は残るものの、1回目の走行に比べて全体的に路面の落ち葉が減り、気温の上昇も相まって走行しやすいコンディションとなった。車両の挙動にも自信を持てるようになり、路面状況の見極めに集中しながら積極的にアタック。滑りやすい箇所では慎重に、グリップの得られる箇所では大胆に攻めることで、SS7から実に16.3秒ものタイムアップを果たした。

SS11 Harukura 2 8.56km

走行タイム 7:02.2　ステージ順位：クラス 6位 / 総合 8位　合計タイム順位：クラス 8位 / 総合 15位



いよいよ迎えた第1期カヤバラリーチームとしての最終ステージ。「とにかく楽しんで、悔いのない走りを」という思いでスタートを切った。ドライビング、ペースノートの内容、コ・ドライバーのリーディング、そして車両のセッティング。そのすべてが見事に噛み合い、気持ちよくステージを駆け抜けた。総合8位の好タイムを記録し、3年間の参戦活動の集大成にふさわしい1本となった。







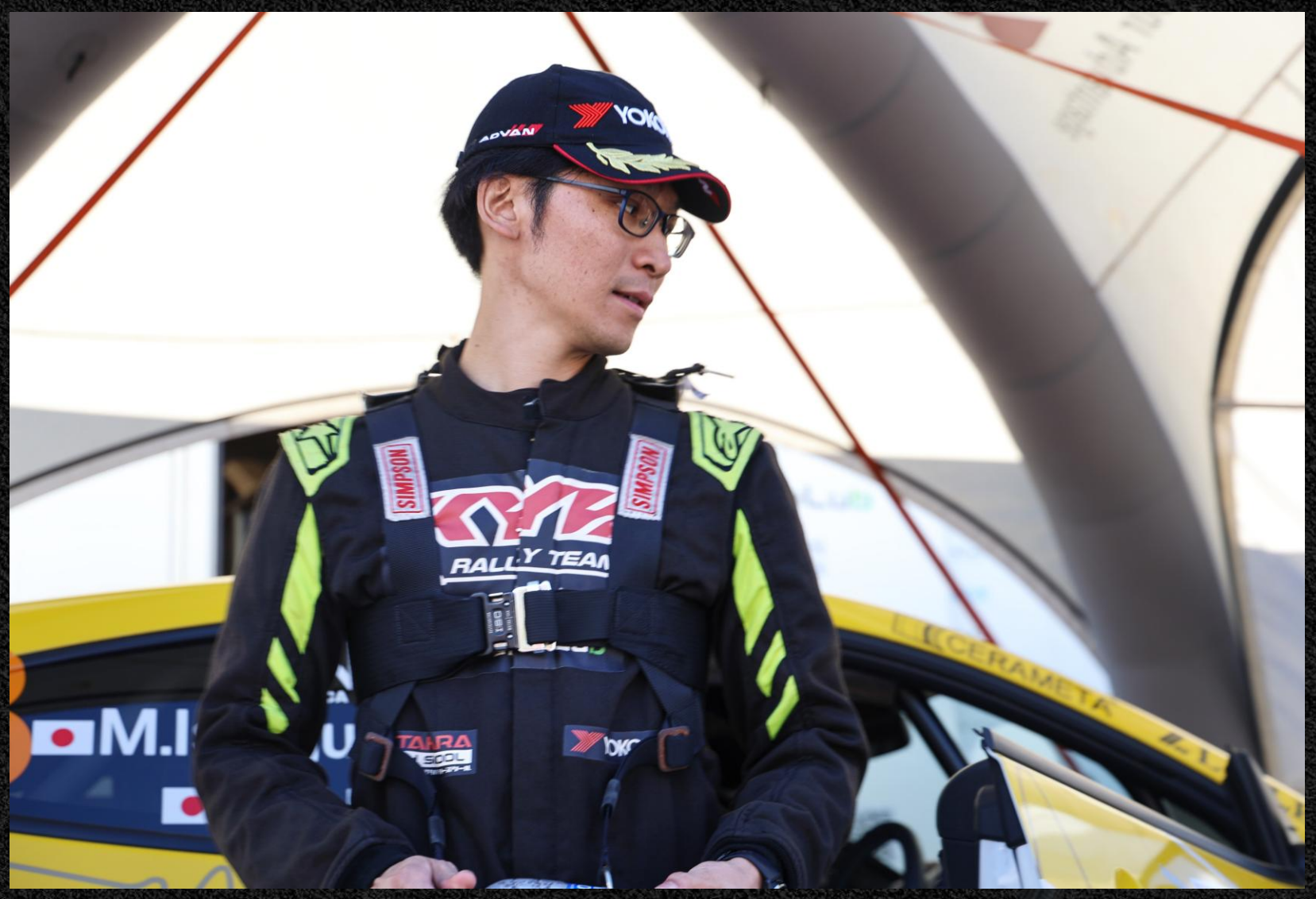







PHOTO GALLERY

















MEMBER's VOICES

DRIVER　石黒 一暢　- Ishiguro Motonobu -



　いよいよカヤバラリーチームでの最後のラリーとなった「モントレー」ですが、まずは無事に完走することができ、ほっとしております。LEG1では、電気系トラブルやエンジントラブルが立て続けに発生し、一時はリタイアも頭をよぎるほど緊張が走りました。しかし、メカニックの迅速かつ的確な対応のおかげで車両は復調し、LEG2では気持ちよく走ることができました。特に日曜日の最後の3本では、車両の状態、セッティング、ペースノート、そしてドライビングのすべてがうまくかみ合い、これまで学んできたことの集大成ともいえる走りができたと感じています。支えてくださったチーム関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。

　本活動は、私にとって夢であったラリーの世界にドライバーとして挑戦する機会を与えてくれただけでなく、社会人としても大きく成長するきっかけとなりました。短いインターバルの中で改善を積み重ねること、失敗した際の「なぜなぜ分析」、会社の“顔”として走る責任、さらには車両目線で製品開発を考える経験など、本プロジェクトならではの多くの学びを得るとともに、貴重な経験を積むことができました。

　実は、私がカヤバという会社を知ったきっかけもラリーでした。20年前、北海道帯広市で開催されたWRCラリージャパンで、国内エントラントの多くがKYBロゴを掲げて参戦していることに気付き、「どのような会社なのだろう」と興味を持って調べたことが始まりです。そして、いつかモータースポーツに関わる仕事がしたいという思いから、カヤバへの入社を決意しました。

　そんなカヤバで、自分自身がドライバーとしてラリー活動に携わることができたことは、大変光栄であり、人生においてかけがえのない経験となりました。

　一方で、世界を舞台に戦ってきた強豪選手たちが集うJN-1クラスは、参戦するだけでも非常に厳しい環境であり、毎戦大きなプレッシャーを感じながら走ってきました。時には必要以上に自分を追い込み、結果として車両を傷めてしまい、メカニックや関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしたこともありました。それでも、年々、沿道でカヤバのノベルティを手に応援してくださる方が増えていくのを目にするたびに、「この活動を続けてきて良かった」と感じていました。そして、私がかつてそうであったように、この活動をきっかけにラリーやカヤバに興味を持ってくださる方が一人でも増えていれば、これほど嬉しいことはありません。

　今後は、かつて所属していた二輪事業の設計部門へ戻り、メーカー担当として新たな業務に携わる予定です。ラリー活動を通じて得た経験や学びを活かし、お客様への価値提供と会社の発展に貢献していきたいと考えております。最後になりますが、これまで応援してくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。3年間、本当にありがとうございました。

Co-DRIVER　穴井 謙志郎　- Anai Kenshiro -



　いよいよ迎えた最終戦。群馬県で開催された「モントレー」に挑んできました。石黒とのコンビもこれにて一区切りということで、肩の力を抜いてラリーを楽しもうという気持ちで臨みました。LEG1では車両トラブルやセッティングのアンマッチもあり、もどかしい展開となりましたが、LEG2の最終ステージでは、石黒が3年間の集大成ともいえるスムーズでパンチのある走りを見せてくれました。「そんな走りができるなら最初からやってくれよ」と言いたい気持ちを抑えつつ、とても清々しい気持ちでラリーを終えることができました。

　3年間を振り返ると、前例のない活動をゼロから作り上げる中で、ルール作りや活動環境の整備、情報共有やタスク管理を通じた組織力の向上、さまざまな課題に対する問題解決力の強化など、第1期メンバーは多方面で成長できたと感じています。ショックアブソーバの設計部門出身である私自身も、ラリー参戦を通じて車両目線で製品への理解を深めるとともに、カヤバを代表して活動する中で、自らの言動に対する責任感が高まり、自信を深めることもできました。

　中でも、PR活動には特別な思いを持って取り組んできました。大学時代にラリーを通じてカヤバ製品に触れ、その技術力と製品の面白さに魅力を感じて入社した私にとって、より多くの方にカヤバを知っていただき、好きになっていただくことは、活動を続ける大きな原動力でした。社員であると同時に、1人のカヤバファンとして会社を盛り上げられる活動にしたいという思いから、得意分野を活かしてノベルティのデザインを考えたり、この参戦レポートもより楽しんでいただけるよう試行錯誤を重ねてきました。

　チーム加入以来、全日本ラリー選手権に計26戦参戦し、北海道から九州まで多くの方々に私たちの活動を見ていただきました。参戦を重ねるごとに、カヤバのノベルティを手にラリーを楽しんでくださる方が増え、「カヤバを応援しているよ」という温かい声をいただけたことは、何よりの喜びであり励みでした。かつてラリーを通じてカヤバのファンになった私が、今度はカヤバのファンを増やす側として活動できたことは、この3年間で得られたかけがえのない財産となりました。

　私はもうしばらくチームの活動に関わらせていただく予定ですが、第2期メンバーのさらなる活躍を心から楽しみにしています。今後もこの活動が、人財育成や製品開発、カヤバのブランド価値向上に繋がるとともに、より多くの社員の皆様にとって新たな挑戦のきっかけとなることを願っています。私自身も、この活動で得た経験と知見を今後の製品開発やものづくりに活かしてまいります。

　応援してくださった皆様には感謝してもしきれません。3年間、温かいご声援を本当にありがとうございました。

MEMBER's VOICES

MECHANIC　増谷 大志　- Masutani Hiroshi -



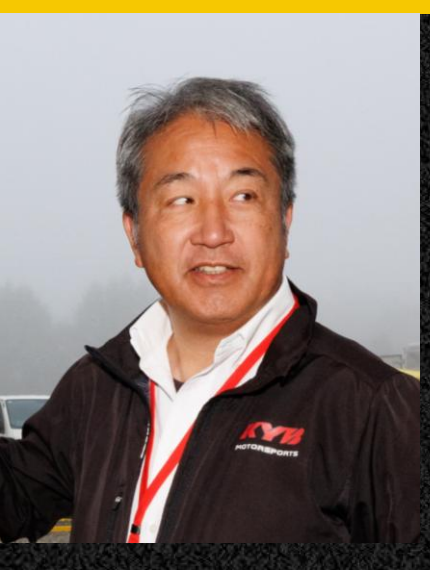
　カヤバラリーチームを応援してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。4年間にわたり、ラリーチームの一員として活動できたことを誇りに思います。私自身、このラリー活動を通じて、事前に入念な準備をすること、現場で柔軟に対応すること、周囲と協力して問題を解決すること、そして何事にも全力で取り組むことの重要性を改めて認識することができました。
　現在、第2期メンバーとして3名のメカニックが在籍しています。ラリー本戦の経験は2～4戦とそれぞれ異なりますが、万全の状態の車両で選手を送り出すという共通の目標に向かって、一人ひとりが全力を尽くしており、頼もしい限りです。12月からは2027年シーズンに向けた車両製作が本格的に始まります。肉体的にも精神的にも厳しい場面があると思いますが、そんなときこそチーム内でコミュニケーションを取り、互いに支え合いながら乗り越えていってほしいと思います。さまざまな課題も生じるかと思いますが、第2期メンバーの活躍を期待しています。引き続き、カヤバラリーチームへ温かいご声援をいただけますと幸いです。

MECHANIC　井戸 貴之　- Ido Takayuki -



　10月より、カヤバラリーチームに第2期メカニックとして加入しました。モータースポーツに関する専門知識はありませんでしたが、第2期メンバーの社内公募をきっかけに、これまで経験する機会のなかったモータースポーツの世界に挑戦したいと思い、応募しました。
　配属からわずか2週間で迎えたハイランドでは、サービス時間の短さに驚き、定常作業をやり遂げるだけで精一杯でした。一方、モントレーでは前戦の経験を活かし、比較的落ち着いて作業を進め、作業後の確認を行う余裕も生まれました。2戦を通じて、クルーに安心してもらえる車両づくりが重要であると実感しました。
　2027年シーズンは、第1期から第2期へと切り替わる年となります。第1期メンバーが築き上げてきた技術力と信頼を受け継ぎ、さらに高いレベルを目指します。ラリー本番だけでなく、日頃から車両のコンディションを整え、どのような状況にも対応できる知識と技術を身につけ、クルーが安心して全力で走れる車両を送り出し、メカニックとしてチームの勝利に貢献できるよう全力を尽くします。

DIRECTOR　桝本 一憲　- Masumoto Kazunori -



日頃より、カヤバラリーチームを応援くださり、ありがとうございます。
早いもので、２０２６シーズンも最終戦となり無事完走し、終わってみればシリーズ６位（ドライバーポイント）という最高の結果を残してくれました。
１期生のメンバーの集大成となった２０２６シーズンでしたが、開幕戦と第２戦と連続リタイアしてしまい、大きな車両損傷などあり、寿命が縮まる思いで駆け抜けて参りました。
約４年前、カヤバラリーチーム発足から監督として皆を率いてきました。全社公募での選抜によるほぼ素人集団で集結したカヤバラリーチームでした。どのようなチームとなるか？予測もついておりませんでしたが、素晴らしい経験と記録に残る結果を残してくれました。
チームの皆と、いつも支えて頂いたスポンサーの皆様や社内外の各関係者の皆様に、心から感謝いたします。
２０２７シーズンは、全員新たなメンバーで、新たな活動となります。
引続き、暖かく見守って頂ければ励みになります。応援よろしくお願いいたします！！

THANK YOU VERY MUCH FOR ALL YOUR SUPPORT!!

Special Thanks

伊勢湾海運株式会社 / CHITA / Takako / Fukoku Tokai / 山二産業株式会社 / 大洋商事 / カトーメテック / 株式会社サイキ
OGISON / 株式会社 甲山製作所 / HSK 株式会社平原精機工業 / TOSHIDA KOGYO CO.,LTD / UTSUE SEIKI CO.,LTD. / NSSI NAKAGAWA SPECIAL STEEL INC. / 三正工業株式会社 / 株式会社 東海技研
金山カヤバ株式会社 / Covalent / IKO 日本トムソン / 株式会社 興亜組 / 林愉快研究所 / DAIDO METAL / 臼田工業 / 生駒鍛金工業株式会社 / NUTAHARA RALLY SCHOOL
YOKOHAMA / KTMS / HKS / BRIDE / LAILE / CERAMETA / FORTEC / PIAA / AQTEC INTERNATIONAL
BELL HELMETS / TONE / Mizuno / SPK GROUP / TCL ADVANCE / PROSPEC

カヤバラリーチームの活動は
各種SNSにて発信しています。

X
@KAYABA_KYB

Instagram
@kybcorporation

YouTube
@kyb_official

KYB
Our Precision, Your Advantage
カヤバ株式会社